

毎月13/29日発売

マックがもっと楽しくなる情報マガジン
マックピープル

特別定価
¥700

MacPeople

2003 10.1

スピード・騒音・熱を
念入りに計測しました

Power Mac G5 仰天ベンチマーク

「世界最速」はホンモノか!?

システムの奥底に眠る
禁断のエリアにレッツ侵入!

あなたもなれる!

OS X スペシヤリスト

高速化カスタマイズ情報、あります

CD-ROM
スペシャル
MacPeople

いつでもマックを素早く操作
メニュー活用ソフト **30**
起動するのが楽しくなる
ブートパネル **25**

デジカメ最大限活用メディア

始めなきゃ!

Fotolog

更新する? しない?

.Mac

2年目の喜怒哀楽

LOAD TEST

シリアルATA、USB 2.0の真髄に迫る

Power Mac G5の足回りがスゴイ!

Pick-up Review

ブラウザしながらページ編集!?

Macromedia Contribute 2

その設定、ホントに合ってる?

AirMac Extreme

プレステ2や家電も
無線化しちゃおう!

本腰活用ガイド

ス

ーザン・ケアと聞いて、「お」と思う人は、かなりのマック通だろう。84年にマックが登場する際、そのGUIで使用されるアイコンのほとんどをデザインした人物だ。あの「ハッピーマック」も彼女が作り出した。

マックの引き込まれるような楽しいインターフェイスは、このアイコンによるところが大きかった。それらは、限られた範囲で正方形の点を並べて図柄を表現していく「ドット絵」と呼ばれる手法で作られていた(旧マックOSでは32×32ドット)。一見単純に見える図柄だが、人間みや温かさを生む要因でもあったのだ。

ドット絵は誰もが手軽に作成できるが、かなり奥が深い。限られた狭い範囲の中に1ドットずつ点を打ち込んで絵柄を描くには、対象物を簡略化する必要がある、そこには製作者の個性やセンスが詰まっているのだ。

事実、スーザン・ケアの「限られたスペースの中で、ドットによるパズルを正確に解いていくのは、モザイクタイルを張っていくような作業です。このように、表現に制限があるところが好きです」とのコメントを筆頭に、ドット絵にハマったアイコン作者も「細部を適当にはしょって描いた部分が、全体としてそれっぽく見えたときの、思わずニンマリしてしまうようなうれしさこそが魅力のひとつ。見る人の目をどこまでこまかせるか、というのが

この32×32ドットという小さいサイズの制限の中で絵を描いていくうえでの挑戦であり、醍醐味であると思いま

マックアイコンの母に見るドット絵がたどる道

す(Hide-It-Nowさん)「サイズや色数の制限といった、ある意味マイナスと思われる要素を逆手に取って描ける点が、捨てがたい魅力です(Emoさん)」「普通の絵がうまく描けなくても、ドット絵だと自分のカンとセンスを頼りに描けてしまうのが楽しいですね。ドットのギザギザ感が、逆に手作りっぽく見えて愛着が湧くんではないかと思っています(Susan Kareさん)」などと語る。ドット絵アイコンはひとつの文化と呼べるほどに広まり、特に日本人の作品は、海外でも高い評価を受けていた。

OS Xのアクアインターフェイスは美しい。アイコンの表現力も格段にアップし、写真をそのままアイコンにすることすら可能だが、逆に物足りなさを感じることもある。似たような事例として、最近のゲームは高速なマシンパワーを利用して、3Dなどを駆使した美しいビジュアルのものが多い。だが、純粋にゲームそのものの面白さを考えると、昔と大きな差があるとは思えない。いやむしろ、ファミコン時代などのほうがグラフィックが単純明快だったぶん想像力が喚起され、感情移入できるハマれる作品が多かった。OS Xにも同様の感覚を持つてしまうのだ。

OS Xの普及に呼応するかのようになり、インターネット上で配布されるドット絵アイコンの数は減っている。しかしそれは、マックのインターフェイスで使用する「アイコン」として見た場合である。実はウェブ上ではまだまだ利用されているのだ。なるほど、限られた色数とコンパクトにまとめられるデザインは、イメージのデータ容量を軽減できる。ページ内のリンクボタンなどに使用している人はもちろん、

Icon Town
http://www.icontown.de/

Susan Kare User Interface Graphics
http://www.kare.com/

Pixel NascImpact
http://pixel.nascimpact.com/

icon wax
http://hiroex.pure.cc/iwm/

ドットで描かれた人や乗り物などのオブジェクトを組み合わせて一枚の大きな絵にしたり、それらを動かしてアニメーションを作っている人もいる。話題になっている人物や時事ネタをドット絵アイコンの題材とし、それを特定の台に載せて展示している「Icons Max」も面白い試みのひとつだ。ドット絵アイコンを残すという目的も持ち合わせており、OS 9のフォルダアイコンに合わせたコピーブランドスタイル(クォータービュー)での作品のみ採用するという徹底ぶり。それにより一覧で表示されたときに、異なる複数のアイコン作者の作品であるにもかかわらず統一感が得られる。それでも各作品に作者独自の個性が感じられるのは、ドット絵アイコンならではの良さだ。同様のものに老舗サイト「Icons Town」があるが、こうしたドット絵の参加型ウェブサイトが増えれば、そこにも新たなドット絵の文化が生まれるかもしれない。

スーザン・ケアの話に戻るが、最近彼女が「ICON & PIXEL FONTS」というビットマップフォントを発表した。そのすべてがドットで製作されており、文字はもちろん、絵柄のフォントもある。キーを打ち込むとテキスト上に絵柄が表示された「Cairo」フォントを知っている人には、涙モノの逸品だ。実は「Cairo」フォントをデザインしたのもスーザン・ケアであるため、絵柄で表現されたビットマップフォントを発表したことに不思議はない。OS X上でも使用できるこのフォントに、ドット絵を採用したことに意味がある。彼女は「フォントのサイズに合わせて、イメージの大きさを簡単に変えられるところが好きなんです」と語るが、ドット絵を楽しむ場所は、こんなところにもあったのだ。(編集部・荒井敏郎)